



管理者ガイド

1.0.1 | 2016 年 2 月 | 3725-69535-001A

Polycom® RealPresence Debut™



Copyright© 2016, Polycom, Inc. All rights reserved. 本書のいかなる部分も、その形態や、電子的または機械的などの手段、または目的を問わず、Polycom, Inc. の書面による許可を受けずに複製または転送することを禁止します。法律によって、他の言語への翻訳および他のフォーマットへの変換も複製とみなされます。

6001 America Center Drive
San Jose, CA 95002
USA

商標 Polycom®、Polycom ロゴ、および Polycom 社製品に関連する製品名およびマークは、Polycom, Inc. の商標および (または) サービスマークであり、米国およびその他の国における登録商標および (または) 慣習法で認められたマークです。



他のすべての商標や著作権は、それぞれの会社が所有しています。この文書のいかなる部分も、Polycom の書面による許可を受けずに、受領者の個人的な使用を除くいかなる目的でも、その形式または方法を問わず、複製または転送することを禁じます。

免責事項 Polycom は本書に掲載されている情報が正確かつ最新であるよう万全を期しておりますが、情報の正確性を保証または表明することはありません。Polycom は、本書のコンテンツにおけるタイプミス、その他のエラー、または削除について何ら責任を負いません。

責任の制限 Polycom およびその供給者は、いかなる目的でも、本書に掲載される情報の適合性について表明することはありません。情報は、現状のまま提供されるものであり、いかなる種類の保証もないものとします。本書の情報は予告なしに変更されることがあります。使用される際のリスクは、すべてお客様が負担するものとします。Polycom またはその供給者は、いかなる直接的、結果的、偶発的、特殊、懲罰的、またはその他の損害 (営業収益の損失、業務の中断、業務情報の消失を含むが限定されない) の責任を、前述の損害の可能性について知らされていた場合であっても、一切負わないものとします。

使用許諾契約書 本製品をインストール、コピー、または使用すると、本製品の使用許諾契約書の諸条件を読み、理解し、またこれに制約されることに同意したことを認めることとなります。本製品のエンドユーザ使用許諾契約は、本製品の Polycom サポートのページをご覧ください。

特許情報 付随製品は、米国および諸外国の 1 つ以上の特許権によって保護されているか、Polycom, Inc. による特許申請中として保護されています。

本製品で使用されているオープンソースのソフトウェア 本製品には、オープン ソース ソフトウェアが含まれる場合があります。ソフトウェアの送付や配布にかかる費用以外は無償で、該当する製品またはソフトウェアの配布日から最大 3 年間、Polycom からオープン ソース ソフトウェアを受け取ることができます。ソフトウェアに関する情報、および本製品で使用されているオープンソースのソフトウェアのコードをご希望の場合は、Polycom まで電子メール (OpenSourceVideo@polycom.com) にてお問い合わせください。

お客様からのご意見 当社では、マニュアルの品質向上に取り組んでおります。お客様からのご意見をぜひお聞かせください。ご意見やご感想は電子メールにて DocumentationFeedback@polycom.com までお送りください。

Polycom サポート エンドユーザ使用許諾契約、ソフトウェアのダウンロード、製品マニュアル、製品ライセンス、トラブルシューティングのヒント、サービス要請などについては、[Polycom Support Center](#) をご参照ください。

目次

本ガイドで使用されている表記規則	6
情報エレメント	6
文字表記規則	7
はじめに	8
対象者、目的、および必要なスキル	8
ヘルプ情報	8
Polycom およびパートナーのリソース	8
Polycom コミュニティ	9
Polycom RealPresence Debut システムについて	10
Polycom RealPresence Debut システム	10
システムハードウェアのセットアップ	11
リモコンへのバッテリーの取り付け	11
システムの配置	11
テーブルまたは薄型ディスプレイへの RealPresence Debut システムの取り付け ...	11
壁への RealPresence Debut システムの取り付け	12
電源のオン/オフ	14
Power-On Self Test (POST)	14
RealPresence Debut システムの電源オン/オフ	14
RealPresence Debut システムのインジケータランプ	14
Polycom RealPresence Debut の操作モード	15
RealPresence Debut システムの設定	15
セットアップウィザード	15
管理者設定	16
RealPresence Debut システム Web インターフェイスの使用	16
Web インターフェイスへのアクセス	16
システムログイン情報の管理	16
システム名の設定	17

ネットワーク	18
LAN への接続	18
LAN ステータスランプ	18
ネットワーク設定の構成	19
H.323 設定	20
SIP 設定	20
ファイアウォールまたは NAT を使用するためのシステムの構成	21
H.460 ファイアウォール /NAT 越え	22
基本的なファイアウォール /NAT 越え接続	22
回線速度設定の設定	23
証明書の管理	23
証明書の検証	23
証明書のインストール	24
モニタ	25
HD ビデオ会議の機能	25
HD でのビデオ送信	25
HD でのビデオの受信と表示	25
フルモーション HD の使用	25
HDTV ビデオ表示の最大化	26
RealPresence Debut HDMI インターフェイス	26
RealPresence Debut とのコンテンツの共有	26
RealPresence Debut とのコンテンツの共有の停止	27
モニタの焼付き防止のためスリープ設定を使用	27
マイク	28
RealPresence Debut マイク	28
マイクタイプごとの音声入力のヒント	28
RealPresence Debut システムの卓上マイク	28
音声メータ	29
通話の発信と応答	30
通話設定	30
ローカルインターフェイスでの通話レートの設定	30
Web インターフェイスでの通話レートの設定	30
自動応答モード	31
暗号化モード	31
Polycom NoiseBlock™ を有効にする	31
ディレクトリの連絡先の管理	31
連絡先のインポートおよびエクスポート	32

Microsoft Exchange サーバのカレンダリングサービスへの接続	32
スケジュール済みミーティングの閲覧	33
スケジュール済みミーティングへの参加	34
通話の発信	34
検索	34
最近の通話	34
通話中のビデオの停止と開始	35
リモートでのシステムの構成	36
プロビジョニングサービスの使い方	36
RealPresence Debut のプロビジョニング	37
プロビジョニングの前提条件	37
プロビジョニングプロファイルの作成	37
プロビジョニングサービスの自動構成	38
プロビジョニングサービスの手動構成	38
プロビジョニングサービスを無効にする	39
RealPresence Cloud モードを有効にする	39
RealPresence Cloud サービスの更新	40
ソフトウェアを最新状態に維持する	40
USB ストレージデバイスからのソフトウェアのアップデート	40
Web インターフェイスからのソフトウェアのアップデート	41
Web インターフェイスの設定のエクスポートとインポート	41
Web インターフェイスの設定のエクスポート	41
Web インターフェイスの設定のインポート	41
トラブルシューティング	42
Polycom RealPresence Debut リストアボタン	42
Polycom RealPresence Debut システムのリセット	42
Polycom RealPresence Debut システムのファクトリリストアの実行	43
システムの IP アドレスの確認	43
テクニカルサポートへの連絡方法	44
Polycom ソリューションサポート	44





本ガイドで使用されている表記規則

本ユーザーガイドには、用語、グラフィックエレメント、およびいくつかの文字表記規則が含まれています。これらの用語、エレメント、表記規則をよく理解しておく、作業の遂行に役立ちます。

情報エレメント

本ガイドには、重要な情報を警告するための、以下のアイコンが含まれています。

本ガイドで使用されているアイコン

システム名	アイコン	説明
メモ		[メモ]アイコンは、興味深い情報や、手順の完了または概念の理解に必要な重要な情報を強調します。
注意		[注意]アイコンは、デバイスのパフォーマンス、アプリケーションの機能性、または機能の正常な構成に影響する可能性のある危険を防ぐために知っておく必要がある情報を強調します。
警告		[警告]アイコンは、情報や構成のセットアップを失う原因となる、または電話、ビデオ、ネットワークのパフォーマンスに影響する可能性のある問題を防止する(あるいは回避する)必要がある動作を強調します。
Web 情報		[Web 情報]アイコンは、support.polycom.com やその他のサイトのドキュメントやダウンロードなど、オンラインで使用できる補足情報を強調します。

文字表記規則

Polycom ガイドでは、テキスト内の各種の情報を識別するため、以下のような文字表記規則が使用されています。

文字表記規則

表記規則	説明
太字	手順またはユーザアクションに含まれている場合に、メニュー、メニューの選択項目、ウィンドウおよびダイアログ名、ソフトキー、ファイル名、ディレクトリ名などのインターフェイスの項目を強調します。また、入力するテキストを強調するためにも使用されます。
斜体	テキストを強調したり、例の値または入力 (形式: < 例 >) を示したりするのに使用されます。また、Polycom サポートの Web サイトおよびその他の参照サイトから入手可能な参照ドキュメントのタイトルを示すのにも使用されます。
青色テキスト	本書内の他のセクション、および外部のサイトやドキュメントへのハイパーリンクを参照する場合に使用されます。
クーリエフォント	コードやパラメーター名に使用されます。

はじめに

『Polycom RealPresence Debut 管理者ガイド』は、Polycom® RealPresence® Debut システムの構成、カスタマイズ、管理、トラブルシューティングを担当する管理者用のマニュアルです。

システムをインストールしたり使用する前には、RealPresence Debut システムのドキュメントをお読みください。以下の RealPresence Debut の関連ドキュメントは、<http://support.polycom.com/PolycomService/support/us/support/video/index.html> にあります。

- Polycom RealPresence Debut のクイックヒント (ビデオ会議タスクの実行方法の手順が記載されています)
- セットアップシート
- リリースノート
- 『Polycom RealPresence Debut 規定に関する通知』は、Polycom RealPresence Debut の使用における安全と法的な留意事項について説明しています。

今後必要が生じた場合に備えて、RealPresence Debut システムのシリアル番号をここに記録しておくようお勧めします。システムのシリアル番号はユニットのラベルに印刷されています。

システムのシリアル番号: _____

対象者、目的、および必要なスキル

本ガイドの主な対象者は、RealPresence Debut システムの設定、カスタマイズ、管理、トラブルシューティングを担当する管理者です。本ガイドでは、システム管理者に対して、概念と一般的なガイドラインを提供します。管理者は、システム管理の経験がある中級レベルの IT プロフェッショナルである必要があります。

ヘルプ情報

Polycom 製品の設置、設定、および管理については、[Polycom Support](#) にある **Documents and Downloads** をご参照ください。

サポートとサービスについては、お買い求めの Polycom 販売代理店、または support.polycom.com の Polycom サポートにご連絡ください。

Polycom およびパートナーのリソース

すべての Polycom パートナーソリューションを検索するには、[Strategic Global Partner Solutions](#) をご参照ください。

Polycom コミュニティ

[Polycom コミュニティ](#)では、最新の開発者とサポートの情報にアクセスすることができます。また、ディスカッションフォーラムに参加して、アイデアを共有したり、仲間と協力して問題を解決することができます。Polycom コミュニティに登録するには、Polycom オンラインアカウントを作成します。ログインすると、Polycom サポート担当にアクセスし、開発者およびサポートのフォーラムに参加して、ハードウェア、ソフトウェア、およびパートナーのソリューションのトピックスに関する最新情報を確認することができます。

Polycom RealPresence Debut システムについて

以下のトピックスでは、システムおよびカメラの設定、設置、起動を含む Polycom RealPresence Debut システムの概要についてご説明します。

- [Polycom RealPresence Debut システム](#)
- [システムハードウェアのセットアップ](#)
- [システムの配置](#)
- [電源のオン/オフ](#)
- [RealPresence Debut システムの設定](#)

Polycom RealPresence Debut システム

RealPresence Debut システムは、最先端のビジュアル コラボレーション ツールです。RealPresence Debut システムでは、堅牢なビデオ通信技術を使用して実現された鮮明な画質とクリアな音質により、自然なやりとりが可能なビデオ会議を実施することができます。お客様のスペースおよび機能の要件にお応えするため、いくつかの RealPresence Debut システムをご用意しています。

RealPresence Debut システムの技術仕様と機能の詳細な説明については、[Polycom サポート](#)の製品資料をご参照ください。

RealPresence Debut システムは、小規模な会議室、集会室、および個室での使用に適しており、高品質で使い易いビデオコラボレーションをお求め易い価格で実現します。

RealPresence Debut システム



RealPresence Debut システムには、内蔵カメラと 2 つの内蔵マイクが搭載されています。ケーブル接続が限定的なため、設定が簡単です。RealPresence Debut は、洗練されたコンパクトなデザインのため、目立たないように設置したり、部屋や建物から持ち出して別の場所で使用することもできます。


システムハードウェアのセットアップ

このガイドでは、システムおよびオプションコンポーネントに付属しているセットアップシートの補足情報を記載しています。プリントされたシステムのセットアップシートは、それぞれの RealPresence Debut システムに同梱されています。また、このシートの PDF 版は、[Polycom サポート](#) から入手することができます。

リモコンへのバッテリーの取り付け

RealPresence Debut システムのリモコンを動作させるには、2 本の単 4 形バッテリーを取り付けて使用する必要があります。

リモコンのバッテリーを取り付けまたは交換するには、以下の手順を実行します。

- 1  ボタンの下にあるリモートのバッテリーカバーをスライドさせます。
- 2 2 本の単 4 形のバッテリーを入れます。RealPresence Debut システムは、出荷時に単 4 形のバッテリーが 1 セット同梱されています。
- 3 下部カバーを交換します。

システムの配置

RealPresence Debut は汎用性が十分にあり、さまざまな方法での設定に対応します。このセクションでは、RealPresence Debut システムの配置方法について説明します。

テーブルまたは薄型ディスプレイへの RealPresence Debut システムの取り付け

RealPresence Debut システムは、机や棚などの天板または薄型ディスプレイに取り付けることができます。RealPresence Debut は、仕上床板から 150 cm の高さ、すなわち部屋で参加者が座ったときのほぼ目の高さに取り付けることをお勧めします。



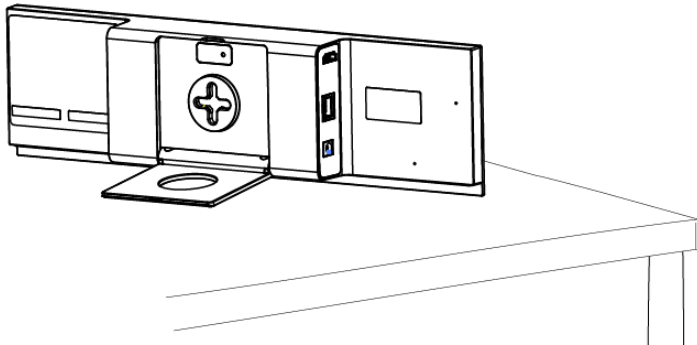
通気と十分なクリアランスを確保する

システム側面の吸排気グリッドをふさがないように設置してください。加熱や突沸を防止するために、RealPresence Debut システムの前部、上部、および下部には十分なスペースを確保してください。

テーブルにシステムを取り付けるには、以下の手順を実行します。

- 1 システムの背部にあるマウントカバー（ブラケット）を開き、テーブル上にシステムを配置します。カバーは、システムをこの位置に取り付けるときのスタンドとして機能します。
- 2 マウントカバーの穴にシステムケーブルを通し、ほぼ所定の位置に保持します。

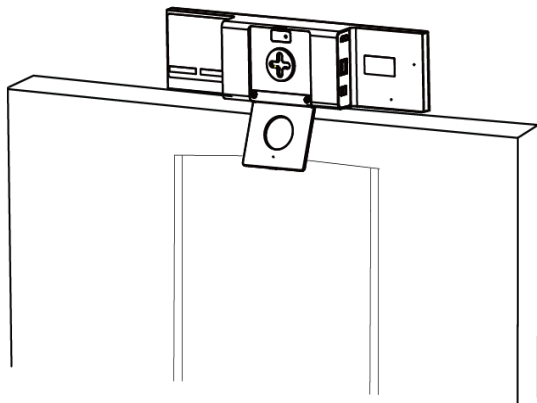
テーブルへの RealPresence Debut システムの取り付け



薄型ディスプレイにシステムを取り付けるには、以下の手順を実行します。

- 1 システムの背部にあるマウントカバー (ブラケット) を開きます。
- 2 マウントカバーのゴム引きされている側をディスプレイに留め具で固定して、システムをディスプレイに配置します。
- 3 マウントカバーの穴にシステムケーブルを通し、ほぼ所定の位置に保持します。

薄型ディスプレイへの RealPresence Debut システムの取り付け



壁への RealPresence Debut システムの取り付け

RealPresence Debut システムは、仕上床板より 100 cm 以上の高さ、すなわち部屋で参加者が座ったときの目の高さに取り付けることができます。

会議室の壁は、厚板間に挟まれるような構造になっています。すなわち、ある階のコンクリートと次の階のコンクリートには隙間がありません。この隙間を埋めるために、弾力性がある石膏ボードが使用されています。石膏ボードの厚さは、部屋の内側で 5/8 インチ以上 (5/8 インチの層と 1/2 インチの組み合わせが理想的) で、外側が約 1/2 インチの厚さ (または、現地の建築コードに応じた厚さ) です。

内壁と外壁に使用される材料の厚さには必ず違いがあります。厚さの違いは、2 つの層の機械的結合 (振動) を緩和します。適正な全体的な壁厚は 6 インチです。「オフセットスタッド」構造を採用し、通常 6 インチのヘッダとフッタを 3 インチの垂直方向にフッタの外側、フッタの内側の順に交互に取り付けるこ

とを推奨します。4 インチから 6 インチ厚 (R-11 から R-13 に相当) のガラス繊維の高密度詰め物や鉱物ロックウールを壁の空間に詰めます。詰め物の厚さは重要ではありません。重要なのは、ピッタリと合うようにぎっしりと詰めることではなくて、壁の空間に余裕を持って配置することです。最終的な壁は、外界からのすぐれた遮音性も備えます。壁の空間内に追加の障壁層を設けることで、さらに遮音性を高めることができます。通常は、この障壁は約 1/8 インチ厚の高密度ポリマー材料製で、壁を伝達する音の損失に関連する改善はおおよそ係数 10 です。



通気と十分なクリアランスを確保する

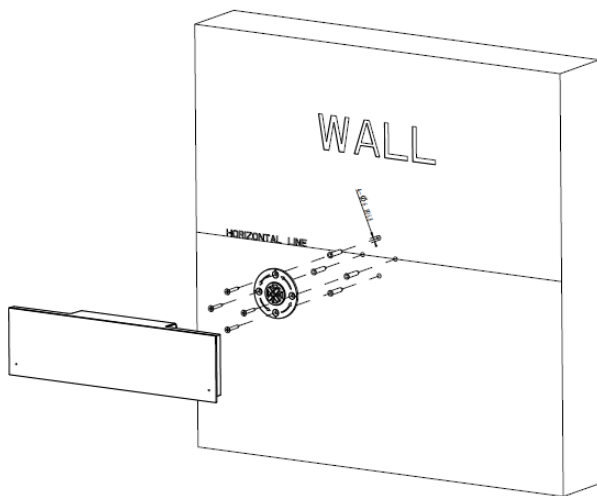
システム側面の吸排気グリッドをふさがないように設置してください。

加熱や突沸を防止するために、RealPresence Debut システムの前部、上部、および下部には十分なスペースを確保してください。

壁にシステムを取り付けるには、以下の手順を実行します。

- 1 壁に水平線を引いて、壁マウントブラケットの位置を示します。RealPresence Debut システムを正確に取り付けるには、この線が水平である必要があります。必要に応じて、測斜計を使用してください。
- 2 システムを配置する壁の目的の場所に 4 つの 6 mm の穴をドリルで開けます。これらの穴は壁マウントの穴と直線上に水平および垂直である必要があります。
- 3 この 4 つの穴に膨張管を挿入します。
- 4 十字穴付きねじ用ドライバー (タイプ H、サイズ 2) および壁マウントキットのねじを使用して、壁マウントを壁に留めます。
- 5 壁マウントに対して RealPresence Debut システムを押して回転します (45 度の角度)。マウントは、システムが固定されたことを示すようにロックする必要があります。

壁への RealPresence Debut システムの取り付け



電源のオン/オフ

Power-On Self Test (POST)

電源がオンになると、RealPresence Debut システムは、初期化される前に、システムの状態の自動チェックを行います。このプロセスは、Power-on Self Test (POST) と呼ばれます。POST シーケンスのステータスは、デバイスの前面にある LED インジケータランプで示されます。インジケータランプの各色の意味については、「[RealPresence Debut システムのインジケータランプ](#)」をご参照ください。致命的なエラーが発生せずに POST シーケンスが終了すると、RealPresence Debut システムは正常に起動されます。

RealPresence Debut システムのテスト結果は、システムメモリに記録されます。POST 実行中に警告が発生した場合は、システムの起動後、ローカルインターフェイスで [設定] > [バージョン] の順に選択します。起動中に致命的なエラーが発生した場合、システムは起動されません。その場合は、Polycom テクニカルサポートにご連絡ください。

RealPresence Debut システムの電源オン/オフ

RealPresence Debut システムは、以下の手順を実行して、電源のオフとオンを切り替えます。

RealPresence Debut システムの電源をオンにするには、以下の手順を実行します。

- 1 HDMI ケーブルを使用して、RealPresence Debut システムとモニタを接続します。
- 2 電源コードと RealPresence Debut システムを接続するか、LAN ケーブルを接続して Power over Ethernet (PoE) によってシステムの電源をオンにします。
- 3 未接続の場合は、LAN ケーブルをシステムに接続してネットワーク接続を確立します。



推奨される LAN ケーブル長

100 フィートを超える長さの LAN ケーブルを使用して RealPresence Debut を接続すると、信号の強さが低くなる可能性があります。外部に電源を持つ Ethernet ハブまたは PoE スイッチを使用して、LAN ケーブルの長さを 100 フィートよりも短く収めることを推奨します。

RealPresence Debut システムの電源をオフにするには、以下の手順を実行します。

- » RealPresence Debut システムから電源コードを外すか、PoE によってシステムの電力が供給されていた場合は、LAN ケーブルを外します。

RealPresence Debut システムのインジケータランプ

RealPresence Debut システムの前面にある LED インジケータランプは、以下の情報を表示します。

インジケータランプ	システムステータス
オフ	システムの電源はオフです。
青色の点滅	POST シーケンスでエラーは発生せず、テストは正常です。青色の点滅が続き、重大なエラーが発生しなければ、POST シーケンスの完了後、システムが初期化されます。

インジケータランプ	システムステータス
オレンジ色の点滅	POST シーケンスを実行中、少なくとも 1 つのテストで警告エラーが発生しています。オレンジ色の点滅が続くものの、重大なエラーが発生しなければ、POST シーケンスの完了後、システムが初期化されます。
赤色の点滅	POST シーケンスを実行中、少なくとも 1 つのテストで重大なエラーが発生しています。赤色の点滅が続き、システムは起動されません。
赤色の点灯	ネットワークケーブルが接続されていないか、プロビジョニング、SIP、または H.323 の登録が失敗しています。
青色の点灯	システムは初期化中です。 システムはスリープモード解除中です。
青色の点滅	システムは IR (赤外線) 信号を受信中です。 システムは通話を受信中です。
オレンジ色の点灯	システムはスリープモード中です。
青色とオレンジ色の交互点滅	システムはソフトウェア更新モードです。 システムはファクトリ リストア モードです。
オレンジ色のすばやい点滅	システムはシャットダウン中です。
緑色の点灯	システムは通話中です。

Polycom RealPresence Debut の操作モード

RealPresence Debut には以下の 2 つの操作モードがあります。

- エンタープライズモード** RealPresence Debut の設定を手動または自動で設定できます。H.323 ゲートキーパーまたは SIP サーバを使用して登録および通話を手動で設定できます。RealPresence Debut を手動で設定する方法については、「[ネットワーク](#)」をご参照ください。また、Polycom® RealPresence® Resource Manager システムなどの Polycom プロビジョニングサーバを使用しても RealPresence Debut を登録できます。プロビジョニングサービスを使用して RealPresence Debut を登録する方法については、「[プロビジョニングサービスの使い方](#)」をご参照ください。
- RealPresence Cloud モード** サービスプロバイダがプロビジョニングサービスを使用して RealPresence Debut を設定します。RealPresence Debut を有効にして Polycom® RealPresence Cloud® サービスにアクセスする必要があります。RealPresence Cloud モードを有効にする方法については、「[RealPresence Cloud モードを有効にする](#)」をご参照ください。

RealPresence Debut システムの設定

このセクションでは、最初の手順で使用するセットアップウィザードを使用して、RealPresence Debut システムを設定する方法についてご説明します。また、ローカルインターフェイスおよび Web インターフェイスで管理設定にアクセスする方法についてもご説明します。

セットアップウィザード

システムの電源を初めてオンにすると、通話を発信するのに必要な最小限の設定手順を行うためのセットアップウィザードが起動されます。

セットアップウィザードを実行するか、設定画面を表示できます。ローカルインターフェイスで画面を移動するか、リモコンおよびオンスクリーンキーボードを使用して情報を入力できます。テキストフィールドが表示されたら、リモコンの[決定]ボタンを押してオンスクリーンキーボードを表示させます。セットアップウィザードの[システム名]フィールドでは、オンスクリーンキーボードが自動的に表示されます。

ローカルインターフェイスからアクセスできるのは、システムが通話を接続させるために必要な設定画面のみです。ほとんどの管理設定は、Web インターフェイスからしかアクセスできません。

セットアップウィザードを使用できるのは、初期設定時、システム設定を削除した状態でシステムをリセットした後、リストアボタンを押した後、または RealPresence Cloud モードを有効にした後です。

管理者設定

セットアップウィザードを実行すると、Web インターフェイスに移動してシステムの構成を表示または変更できます。ローカルインターフェイスには、Web インターフェイスで使用できる管理設定のサブセットがあります。

プロビジョニングサービスを有効にすると、Polycom RealPresence® Resource Manager システムでプロビジョニングされた設定は、Web インターフェイスで読み取り専用として表示される場合があります。自動プロビジョニングの詳細については、『Polycom RealPresence Resource Manager System Operations Guide』をご参照ください。

RealPresence Debut システム Web インターフェイスの使用

インターネット接続が確立されているコンピュータから RealPresence Debut システムの設定、管理、監視を行うには、システムの Web インターフェイスを使用します。Web インターフェイスでは以下のインターネットブラウザがサポートされています。

- Microsoft® Internet Explorer® バージョン 10 または 11
- Google Chrome™ 46.0.2490.86
- Mozilla® Firefox® 42.0
- Apple® Safari® 9

Web インターフェイスへのアクセス

ローカルシステム上で実行できる通話や設定などの操作のほとんどは、RealPresence Debut システムの Web インターフェイスを使用して実行することができます。

Web インターフェイスを使用してシステムにアクセスするには、以下の手順を実行します。

- 1 ブラウザのアドレス行に、システムの IP アドレス (例: `https://10.11.12.13`) を入力します。
- 2 パスワードが設定されていない場合は、Web インターフェイスが自動的に表示されます。パスワードが設定されている場合は、ユーザ名としての管理者 ID (デフォルトは `admin`) と管理者パスワードを入力して、[ログイン] をクリックします。

システムログイン情報の管理

RealPresence Debut システムログイン情報は Web インターフェイスから管理します。ローカルアクセスとは、ローカルインターフェイスを経由して RealPresence Debut システムを使用することを意味します。

システムのログイン情報を構成するには：

- 1 Web インターフェイスで、[管理者設定] > [パスワード] の順に選択します。
- 2 以下の設定を構成します。設定が表示される順番は、インターフェイスによって異なります。

設定	説明
現在のパスワード	Web インターフェイスを経由してシステムにログインした際に使用した管理者アカウントの既存のパスワードを入力します。初めてパスワードを作成する場合、この設定は空白にしてください。 このパスワードを設定した場合、Web インターフェイスにアクセスするときにこのパスワードを入力する必要があります。パスワードには、スペースまたは 40 文字以上を含めることはできません。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。
新しいパスワード	新しいパスワードを指定します。
パスワードの確認	新しいパスワードを確認のために入力します。

システム名の設定

システム名は、通話を発信したときに相手側サイトの画面に表示されます。



システム名の制限

RealPresence Debut プロビジョニングモードが有効な場合、システム名は設定できません。

システム名を設定するには：

- 1 Web インターフェイスで、[サーバ設定] > [プロビジョニング] の順に選択し、[無効] を選択してプロビジョニングモードを無効にします。
- 2 Web インターフェイスで、[システム設定] > [一般設定] の順に選択します。
- 3 [システム名] フィールドに名前を入力して、[送信] をクリックします。

ネットワーク

ネットワークオプションの構成を開始する前に、ビデオ会議用のネットワークの準備が整っていることを確認します。Polycom では、契約による HD レディネスサービスをご提供しています。詳細については、Polycom の販売代理店にお問い合わせください。

このセクションのトピックスでは、世界中で使用されているネットワークタイプについてご説明していますが、すべてのネットワークタイプがすべての国で使用できるとは限りません。ネットワークの構成を開始するには、以下のトピックスをご参照ください。

- [LAN への接続](#)
- [回線速度設定の設定](#)
- [証明書管理](#)

LAN への接続

RealPresence Debut システムで以下のいずれかを行うには、システムを LAN に接続する必要があります。

- H.323 通話または SIP 通話を行う
- 管理システムに登録する
- Web インターフェイスにアクセスする

LAN ステータスランプ

RealPresence Debut システムの LAN コネクタには 2 つのランプがあり、接続状況とトラフィックが表示されます。

インジケータランプ	接続状況
両方のランプとも消灯	10/100 Base-T による接続なし、ネットワークトラフィックなし。
緑色と黄色のランプが点灯	10/100 Base-T による接続
緑色のランプが点灯し、黄色のランプが点滅	10/100 Base-T による接続、ネットワークトラフィックあり

ネットワーク設定の構成

RealPresence Debut システムのネットワーク設定を構成できます。

RealPresence Debut システムのネットワーク設定を構成するには、以下の手順を実行します。

- 1 以下のいずれかを実行します。
 - ローカルインターフェイスで、[設定]>[ネットワーク]>[LAN ネットワーク]の順に選択します。
 - Web インターフェイスで、[システム設定]>[ネットワーク設定]の順に選択します。
- 2 Web インターフェイスで以下の IPv4 ネットワーク設定を構成します。

設定	説明
DHCP モード	[DHCP] に設定すると、システムの IP アドレスが自動的に取得されます。 [静的 IP] に設定すると、[IP アドレス]、[サブネットマスク]、[ゲートウェイ]、および [DNS] を手動で入力できます。
IP アドレス	システムの IP アドレスを指定します。 デフォルトの IP アドレスがシステムによって自動的に取得されない場合は、ここに入力します。 DHCP モードが [DHCP] の場合、このフィールドは無効になります。
サブネットマスク	現在システムに割り当てられているサブネットマスクが表示されます。 サブネットマスクがシステムによって自動的に取得されない場合は、ここに入力します。 DHCP モードが [DHCP] の場合、このフィールドは無効になります。
ゲートウェイ	現在システムに割り当てられているデフォルトゲートウェイが表示されます。 デフォルトゲートウェイの IP アドレスがシステムによって自動的に取得されない場合は、ここに入力します。 DHCP モードが [DHCP] の場合、このフィールドは無効になります。
DNS	現在システムに割り当てられている DNS サーバが表示されます。 DHCP モードが [DHCP] の場合、このフィールドは無効になります。

ローカルインターフェイスで以下のネットワーク設定を構成します。

設定	説明
LAN ネットワーク	[DHCP] または [静的]。[静的] オプションを選択すると、以下の追加設定が表示されます。 IP アドレス サブネットマスク ゲートウェイ DNS サーバ

H.323 設定

ゲートキーパーを使用しているネットワークでは、H.323 名と内線番号を自動的に登録することができます。これにより、相手側は、IP アドレスではなく H.323 名または内線番号を使って、このシステムにコールすることができます。



RealPresence Debut では、H.323 プロトコルと SIP プロトコルを両方とも有効にすることはできません

RealPresence Debut では、H.323 プロトコルと SIP プロトコルを両方とも有効にすることはできません。システムのプロビジョニング中にプロビジョニングサービスによって両方のプロトコルが有効にされると、SIP プロトコルに H.323 プロトコルよりも高い優先度が与えられ、通話時に使用されます。

H.323 設定を指定するには、次の操作を行います。

- 1 Web インターフェイスで、[サーバ設定]>[通話サーバ]の順に選択します。
- 2 以下の設定を構成します。

設定	説明
通信プロトコル	レジストラプロトコルを指定します。[H.323]を選択します。
H.323 登録が有効	H.323 設定が表示され、設定が可能になります。
ゲートキーパーアドレス	ネットワークが使用するゲートウェイキーパーアドレス。
H.323 名	ゲートキーパーとゲートウェイがシステムの識別に使用する名前を指定します。発信側システムと着信側システムが、どちらもゲートキーパーに登録されている場合、H.323 名を使って 2 地点通話を発信することができます。 [H.323 名] は、変更しないかぎり、[システム名]と同じです。組織のダイヤルプランによっては、使用できる名前が規定されている場合もあります。
H.323 内線番号 (E.164)	発信側システムと着信側システムが、どちらもゲートキーパーに登録されている場合、H.323 内線番号を使って 2 地点通話を発信することができます。また、ゲートキーパーとゲートウェイがシステムの識別に使用する番号として、この H.323 内線番号を指定することができます。 組織のダイヤルプランによっては、使用できる内線番号が規定されている場合もあります。

SIP 設定

ネットワークで SIP (Session Initiation Protocol) がサポートされている場合は、IP 通話の接続に SIP を使用することができます。

SIP プロトコルは幅広く VoIP 通信やベーシックなビデオ会議に使用されていますが、ビデオ会議の機能についてはまだ標準化されていない部分が多くあります。また、その機能の多くは SIP サーバによって異なります。

SIP 設定を指定するには、以下の手順を実行します。

- 1 Web インターフェイスで、[サーバ設定]>[通話サーバ]の順に選択します。
- 2 以下の設定を構成します。

設定	説明
通信プロトコル	レジストラプロトコルを指定します。[SIP] を選択します。
トランスポートプロトコル	システムが SIP シグナリングに使用するプロトコルを示します。 必要となるプロトコルは、RealPresence Debut システムが動作している SIP ネットワークのインフラによって決まります。 TCP — TCP を使用した SIP シグナリングによって、信頼性のあるトランスポートを行います。 UDP — UDP を使用した SIP シグナリングによって、ベストエフォート方式のトランスポートを行います。 TLS — SIP シグナリングによる安全な通信を行います。TLS は、システムが TLS をサポートする SIP サーバに登録されている場合にのみ使用することができます。この設定を選択すると、システムは TCP/UDP ポート 5060 を無視します。SVC 通話を暗号化する場合、TLS を選択します。
SIP 登録を有効にする	SIP 設定が表示され、設定が可能になります。
プロキシサーバ	SIP プロキシサーバの DNS FQDN または IP アドレスを指定します。TCP のデフォルトでは、SIP シグナリングはプロキシサーバのポート番号 5060 に送信されます。TLS のデフォルトでは、SIP シグナリングはプロキシサーバのポート番号 5061 に送信されます。
ドメイン	SIP プロキシサーバのドメインを指定します。
サインインアドレス	mary.smith@department.company.com のようにシステムの SIP アドレスまたは SIP 名を指定します。このフィールドを空白にした場合、システムの IP アドレスが認証に使用されます。
認証ユーザ名	SIP プロキシサーバへ登録する際の認証に使用するユーザ名 (marySmith など) を指定します。SIP プロキシサーバで認証が必要な場合は、このフィールドとパスワードを空白にしておくことはできません。
パスワード	システムをプロキシサーバに認証するために使用するユーザ名と関連するパスワードを指定します。指定できるパスワードの長さは 47 文字までです。

ファイアウォールまたは NAT を使用するためのシステムの構成

ファイアウォールは、ネットワーク外部からのデータトラフィックを制御することによって、組織の IP ネットワークを保護します。H.323 ビデオ会議システムと連動するよう設計されたファイアウォールを使用している場合を除き、システムとファイアウォールは、ビデオ会議のトラフィックがネットワークを行き来できるように設定する必要があります。

NAT (Network Address Translation) ネットワーク環境では、ネットワーク内のデバイスに対してはプライベートな内部 IP アドレスを使用します。一方、外部 IP アドレスは、LAN 上のデバイスが LAN 外部のデバイスと通信できるように 1 つだけ使用します。NAT が使用されている LAN にシステムを接続している場合は、[NAT のパブリック (WAN) アドレス] を入力して、システムが LAN の外部と通信できるようにする必要があります。

システムが、ファイアウォールまたは NAT を使用できるようにするには：

- 1 Web インターフェイスで、[管理者設定] > [NAT 設定] の順に選択します。
- 2 以下の設定を構成します。

設定	説明
NAT モード	NAT パブリック WAN アドレスをシステムで決定するかどうか指定します。 <ul style="list-style-type: none"> システムが NAT 内がない場合や、VPN を介して IP ネットワークに接続されている場合は、[オフ] を選択します。 NAT パブリック WAN アドレスが不明な場合は、[自動] を選択します。 NAT パブリック WAN アドレスが明らかな場合は、[手動] を選択します。
NAT IP アドレス	NAT パブリック WAN アドレスを指定します。NAT モードが [自動] に設定されている場合、このフィールドは無効になります。
H.460 ファイアウォール越え	システムで IP 通話の H.460 に基づくファイアウォール越えができるようにします。詳細については、「 H.460 ファイアウォール/NAT 越え 」をご参照ください。
H.323 TCP ポート メディアポート	システムが使用する TCP ポートとメディアポートの範囲の先頭値を指定します。システムでは、設定した先頭値に基づいてポートの範囲を自動的に設定します。 メモ ：H.323 トラフィック用に、ファイアウォール内の TCP ポート 1720 も開く必要があります。

ファイアウォール内に設定される環境では、ファイアウォール管理者は、アクセスを TCP 接続のみに制限することができます。TCP はエラーチェックを備えたデータ配信の正確かつ信頼性の高い方式ですが、高速な方式ではありません。このような理由から、リアルタイム メディア ストリームは、正確さよりも速さを特徴とする UDP を使用しています。



ファイアウォールの推奨

ファイアウォールの外側に設置されたシステムは、不正アクセスによる攻撃を受けやすくなります。最新のセキュリティ情報については、support.polycom.com にある、Polycom のセキュリティに関するセクションの Knowledge Base をご参照ください。最新情報や勧告を、電子メールで受け取れるように登録することもできます。

H.460 ファイアウォール/NAT 越え

RealPresence Debut システムは、標準規格に基づく H.460.18 および H.460.19 のファイアウォール越え機能を使用するように設定できます。これにより、ビデオシステムがファイアウォールを越えてより簡単に IP 接続を確立できるようになります。

このファイアウォール越えを使用するには、RealPresence Debut システムとファイアウォールを以下のように構成します。

- RealPresence Debut システムでファイアウォール越えを有効にします。
 - Web インターフェイスで、[**管理者設定**] > [**NAT 設定**] の順に選択します。
 - [**H.460 ファイアウォール越え**] 設定について [**有効**] を選択します。
- 標準規格の H.460.18 と H.460.19 をサポートする外部の Polycom Video Border Proxy™ (VBP®) ファイアウォール越えデバイスに RealPresence Debut システムを登録します。

基本的なファイアウォール/NAT 越え接続

基本的なファイアウォール/NAT 越え接続を使用すると、RealPresence Debut システムは RealPresence® Access Director™ セッションボーダーコントローラ (SBC) を使用して、SIP に基づく RealPresence ソリューションに接続することができます。RealPresence Debut システムは、リモートの企業端末として

RealPresence Access Director に接続されます。リモートの企業端末は企業の SIP インフラストラクチャに登録され、企業のファイアウォールを経由して内部の企業端末に接続されます。

この機能と連動して使用される RealPresence Access Director の使用方法と構成については、[Polycom サポート](#)の RealPresence Access Director のドキュメントをご参照ください。

回線速度設定の設定

通話速度を構成するには：

- Web インターフェイスで、[システム設定]>[通話設定]>[通話レート]の順に選択して、目的の速度を選択します。
- ローカルインターフェイスで、[システム設定]>[一般設定]>[通話レート]の順に選択して、目的の速度を選択します。

証明書の管理

ネットワーク上のデバイス間のセキュアな接続を確保する公開鍵基盤 (PKI) を導入している場合は、RealPresence Debut システムを PKI と統合する前に、証明書の管理と、これがそれらの製品にどのように適用されるかを十分理解することをお勧めします。

RealPresence Debut システムは、証明書を使用して RealPresence Debut システムとのネットワーク接続を認証することができます。また、インターネットを利用する場合にも見られるように、他の Web アプリケーションでも証明書が使用されます。システムは、PKI の典型的な構成テクニックおよび管理テクニックを使用して、証明書、および証明書の署名要求を管理します。

RealPresence Debut システムは、証明書の正式な発行のために証明機関 (CA) に送信できる証明書の署名要求 (CSR) を生成することができます。CA は、他者のためにデジタル証明書の発行または署名を行う信用機関です。CA によって署名されると、証明書は RealPresence Debut システムにインストールされ、システムが使用するすべての TLS 接続に使用されます。

PKI が完全に展開されている環境でシステムが使用される場合、RealPresence Debut システムは .pem フォーマットの 1 つのサーバ証明書の生成と使用をサポートし、通常はこれらを義務付けます。RealPresence Debut システムの Web インターフェイスへの接続を試みるブラウザから接続要求を受領した後に、RealPresence Debut システムの Web サーバがこの証明書を提供します。

RealPresence Debut システムが、完全に展開された PKI のない環境に設置されている場合、すべての RealPresence Debut システムがセキュアな TLS 接続の確立に使用できる自己署名証明書を自動的に生成するため、これらの証明書をインストールする必要はありません。ただし、完全な PKI が展開されている場合、自己署名証明書は PKI に信頼されないため、署名済みの証明書を使用しなければなりません。

証明書の検証

証明書は、CA が署名した時点で対外的に認証されます。証明書は認証されたネットワーク接続の確立に使用される際に自動的に検証されます。この認証を行うには、RealPresence Debut システムには信頼チェーンの一部であるすべての CA の証明書がインストールされていなければなりません。信頼チェーンは、さまざまな CA に証明書を発行した中間 CA を通り、既知の信頼されている CA であるルート CA まで戻る、認証されるデバイスから発行された証明書を持つ CA の階層です。

証明書は、どちらもピアであるサーバとクライアントの間で交換されます。ユーザが RealPresence Debut システムの Web インターフェイスにアクセスすると、RealPresence Debut システムはサーバ、Web ブラウザはクライアントアプリケーションとなります。

証明書のインストール

RealPresence Debut システムに証明書をインストールできます。

証明書をインストールするには、以下の手順を実行します。

- 1 Web インターフェイスで、[管理者設定] > [証明書] の順に選択して、[インポート] をクリックします。
- 2 [ファイルの選択] をクリックし、.pem 証明書を検索して選択します。前回 CSR として作成し、CA の署名を取得したサーバ証明書をインストールする場合や、システムが別のシステムから受領した証明書を認証するために必要な CA 証明書をインストールする場合があります。

証明書データが確認されて、リストに追加されます。リストに証明書が表示されない場合、システムは証明書を認識することができていません。この処理は証明書のインストールと呼ばれることがあります。

CA 証明書をシステムに追加すると、証明書はピアの証明書を認証するための信頼された証明書になります。



Web インターフェイスを使用する前に、サーバ証明書を追加

Web インターフェイスを使う前にシステムに証明書を追加しなかった場合、Polycom という Web サイトのセキュリティ証明書を確認できないことを告げるエラーメッセージがブラウザから表示されます。ほとんどのブラウザは、この警告が表示された後もユーザに続行を許可します。これを行う方法については、ブラウザのヘルプセクションをご参照ください。

モニタ

このセクションのトピックスでは、HD ビデオ会議およびシステムを使用したモニタの設定方法について詳しく説明します。

HD ビデオ会議の機能

Polycom RealPresence Debut システムには、以下の HD 機能があります。

- 人物ビデオまたはコンテンツビデオを相手側システムに HD で送信する
- 相手側システムからのビデオを HD で受信し表示する
- こちら側システムのビデオを HD で表示する
- フルモーシヨンの HD ビデオ

HD でのビデオ送信

Polycom RealPresence Debut システムは HD 対応で、ビデオをワイドスクリーン、HD フォーマットで送信することができます。

HD でのビデオの受信と表示

相手側が HD ビデオを送信すると、HD 機能および HD モニタを備える RealPresence Debut システムはワイドスクリーンで、HD フォーマットでビデオを表示できます。RealPresence Debut システムは 1080 機能を備え、1080p プログレッシブフォーマットを受信できるため、1080p プログレッシブまたは 1080i インターレースフォーマットを表示できます。

HD ビデオソースと HD モニタを使用すると、こちら側システムのビデオは HD フォーマットで表示されます。ただし、システムが SD または低解像度で通話中は、こちら側システムのビデオは SD で表示されます。

フルモーシオン HD の使用

RealPresence Debut Series システムでは、ビデオ性能および音声性能に、より高い基準を設定しています。通話相手先のビデオを 1080p 30fps のフルモーシオン HD で見ると、ビデオに新たなレベルの臨場感がもたらされます。フルモーシオン HD によって、「同じ部屋にいるような」感覚を体験するために不可欠な、透明で鮮やかな視覚とよどみない音声を得ることができます。

HDTV ビデオ表示の最大化

テレビをモニタとして使用する場合、HDTV 設定によってはビデオ表示または通話の品質に影響を与える場合があります。この問題を回避するには、「SurroundSound」などの HDTV メニューの音声向上機能をすべて無効にする必要があります。

さらに、多くの HDTV には、ゲームモードと呼ばれる低遅延モードがあり、ビデオおよび音声の遅延を下げることができます。通常、デフォルトではゲームモードはオフになっていますが、オンにするとより良い結果が得られる場合もあります。

最後に、Polycom RealPresence Debut システムを TV モニタに接続する前に、モニタがすべての使用可能なピクセルを表示するよう設定されていることを確認します。この設定は、「画面に合わせる」または「ドットバイドット」と呼ばれ、HD 画像全体を表示させることができます。モニタ設定の設定項目名は、モニタのメーカーによって異なります。

RealPresence Debut HDMI インターフェイス

RealPresence Debut システムには、有線コンテンツ共有用のインターフェイスとモニタ接続用のインターフェイスの 2 つの HDMI インターフェイスがあります。RealPresence Debut では HDMI to HDMI 接続のみをサポートしています。VGA to HDMI ケーブル接続などの変換はサポートしていません。

コンテンツ共有 HDMI インターフェイスはオーディオストリーミングをサポートしています。パーソナルコンピューティング デバイスからのコンテンツ共有では、HDMI 接続を適用したコンピュータを使用したコンテンツの共有、Polycom RealPresence Desktop を使用したコンテンツ共有、または Polycom RealPresence Mobile を使用したコンテンツの共有を参照します。

HDMI モニタ接続は、ローカルインターフェイスとの接続をサポートしています。モニタは、HDMI 接続以外に、内蔵スピーカーも備えている必要があります。Polycom が推奨する最善の結果を得るための HDMI インターフェイス入力解像度は以下のとおりです。

入力	解像度
HD	1920 x 1080p
HD	1280 x 720p
XGA	1024 x 768p
WXGA	1280x768
SVGA	800x600

RealPresence Debut とのコンテンツの共有

有線の HDMI 接続を使用して、パーソナル コンピューティング デバイスから RealPresence Debut システムとコンテンツを共有できます。

有線の HDMI 接続を使用してコンテンツを共有するには、以下の手順を実行します。

- » HDMI ケーブルをパーソナル コンピューティング デバイスおよび RealPresence Debut システムに接続します。



常に HDMI ケーブルを接続する

HDMI ケーブルがパーソナル コンピューティング デバイスおよび RealPresence Debut システムに接続されているにもかかわらず、コンテンツが共有されない場合は、コンテンツの共有を開始するために、RealPresence Debut から HDMI 接続を外し、RealPresence Debut への HDMI 接続を再度行います。

RealPresence Debut とのコンテンツの共有の停止

有線の HDMI 接続を使用して、パーソナル コンピューティング デバイスから RealPresence Debut システムとコンテンツの共有を停止できます。

有線の HDMI 接続を使用したコンテンツの共有を停止するには、以下の手順を実行します。

パーソナル コンピューティング デバイスおよび RealPresence Debut システムとの HDMI ケーブルの接続を外します。

モニタの焼き付き防止のためスリープ設定を使用

モニターや RealPresence Debut システムには、画像の焼き付き防止のためのディスプレイ設定があります。プラズマテレビは特にこの問題に対して脆弱です。具体的な推奨設定や操作手順については、モニタの取扱説明書を参照するか、製造元にお問い合わせください。以下の方法によって、画像の焼き付きを防止することができます。

- 静止画像が長時間にわたって表示されないようにします。
- システムがスリープ状態になるまでの時間を 30 分以下に設定します。スリープ値を指定するには、[システム設定]>[一般設定]>[スリープまでの時間]の順に選択します。
- 会議が 1 時間以上続き、動きが少ない場合も、静止画像と同じ効果が発生する可能性があることにご注意ください。
- モニタのシャープネス、輝度、コントラストが最大値になっている場合は、設定値を下げてみます。

マイク

このセクションでは、音声入力の位置情報を提供するとともに、Web インターフェイスから実行可能な音声設定について取り扱います。

- [RealPresence Debut マイク](#)
- [マイクタイプごとの音声入力のヒント](#)
- [音声メータ](#)

RealPresence Debut マイク

RealPresence Debut システムには 2 つの内蔵マイクが備えられ、1 つのマイク入力を使用できます。

マイクタイプごとの音声入力のヒント

音声デバイスを RealPresence Debut システムに接続する前に、必ず、システムの電源がオフになっていることを確認します。

RealPresence Debut システムの卓上マイク

360 度の範囲をカバーする 3 つのマイク要素を含む卓上マイクを備える RealPresence Debut も用意されています。卓上マイクは RealPresence Debut システムマイク入力に接続します。

最適な状態で集音するには、以下のガイドラインをご参照ください。

- 硬い平面上 (テーブル、壁、天井など) にマイクを配置し、付近に障害物がないようにします。これによって、マイク素子で音声適切に集音されます。
- モニタに一番近い参加者の前にマイクを配置します。

次の表は、RealPresence Debut 卓上マイクのランプ表示について説明しています。

ステータス	ステータス マイク ランプ
オフ	非通話状態
緑色	通話中、ミュートオフ
赤色	ミュートオン

音声メータ

ユーザインターフェ이스の音声メータによって、左右のチャンネルを識別することができます。メータには、ピーク信号レベルも表示されます。通常の発話とプログラム素材に関しては、+3 dB から +7 dB の間にピークが来るように信号レベルを設定します。一時的な大音量でピークがときどき +12 dB から +16 dB までの範囲になってもかまいません。音声メータが +20 dB を示すと、音声信号レベルは 0 dBFS になり、音がひずむ場合があります。

システムを設定したら、システム設定をテストして、テスト通話を行います。

音声をテストするには、以下の手順を実行します。

- 1 Web インターフェイスで、[診断] > [音声メータテスト] の順に選択します。
- 2 左右の音量メータを見ながら、マイクの左側と右側に息を吹きかけて、左右の音声入力レベルを確認します。
- 3 スピーカーをテストして、音量と音声ケーブルの接続を確認します。

通話の発信と応答

RealPresence Debut システムを使い始める前に、システム設定と通話設定の構成を行います。[システム設定]画面では、システム全体にかかわる上位レベルのオプションにアクセスすることができます。[ユーザ設定]オプションの一部は、この画面で設定することもできます。

通話を開始するには、以下のトピックスをご参照ください。

- [通話設定](#)
- [ディレクトリの連絡先の管理](#)
- [Microsoft Exchange サーバのカレンダリングサービスへの接続](#)
- [通話の発信](#)
- [最近の通話](#)
- [通話中のビデオの停止と開始](#)

通話設定

[通話設定]画面では、Web インターフェイスおよびローカルインターフェイスの両方で、通話の発信および応答の際にユーザがアクセスできる設定を決定することができます。

ローカルインターフェイスでの通話レートの設定

ローカルインターフェイスで通話レートを設定できます。

ローカルインターフェイスで通話レートを設定するには、以下の手順を実行します。

- 1 ローカルインターフェイスで、[ホーム]ページの[設定]アイコンを選択します。
- 2 [一般設定]アイコンを選択します。
- 3 ドロップダウンリストから**通話レート**値を選択します。

Web インターフェイスでの通話レートの設定

Web インターフェイスで通話レートを設定できます。

Web インターフェイスで通話レートを設定するには、以下の手順を実行します。

- 1 Web インターフェイスで、[システム設定]>[通話設定]の順に選択します。
- 2 [通話レート]ドロップダウンリストから**通話レート**値を選択します。

自動応答モード

通話に自動的に応答するオプションを選択できます。

通話自動応答モードを設定するには、以下の手順を実行します。

- 1 Web インターフェイスで、[システム設定]>[通話設定]の順に選択します。
- 2 通話の自動応答モードを以下のいずれかに設定します。
 - [有効] – 着信通話に自動的に応答します。
 - [無効] – 着信通話に手動で応答します。

暗号化モード

AES 暗号化はすべての RealPresence Debut システムに標準で組み込まれている機能です。AES を有効に設定すると、他の AES 暗号化に対応したシステムとの通話が自動的に暗号化されます。

システムで暗号化が有効に設定され、通話が暗号化されている場合、モニタには施錠された南京錠アイコンが表示されます。通話が暗号化されていない場合は、モニタに解錠された南京錠アイコンが表示されます。セキュリティリスクを解消するため、すべての参加者が通話開始時に会話で鍵形アイコンの状態を確認することをお勧めします。

暗号化モードを設定するには、以下の手順を実行します。

- 1 Web インターフェイスで、[システム設定]>[通話設定]の順に選択します。
- 2 暗号化モードを[オン]、[オフ]、または[自動]に設定します。

暗号化モードが[オン]または[自動]に設定されている場合、[サーバ設定]の SIP トランスポートプロトコルの設定は、システムが自動または手動のいずれでプロビジョニングされても、自動的に [TLS] に設定されます。

Polycom NoiseBlock™ を有効にする

Polycom NoiseBlock™ はすべての RealPresence Debut システムに標準で組み込まれている機能です。この機能が有効な場合、システムは室内に環境雑音が発生すると、それを自動的に感知し、ビデオ会議中に相手側まで雑音が伝わるのを防止します。環境雑音には、キーボードのタイピングの音、紙の入れ替えの音、または人の話し声以外のなんらかの音が含まれます。こちら側の会議参加者が話し始めると、システムは音声を相手側に送信します。

NoiseBlock を有効にするには、以下の手順を実行します。


- 1 Web インターフェイスで、[システム設定]>[通話設定]の順に選択します。
- 2 [ノイズブロック] ドロップダウンリストから [有効] を選択します。

ディレクトリの連絡先の管理

ローカル インターフェイス ユーザは、[ホーム] ページの [通話の発信] を選択して、[連絡先] を選択できます。

Web インターフェイス ユーザは、[連絡先] 画面で連絡先を追加できます。

連絡先を追加するには：

- 1 ディレクトリリストに連絡先を追加するには、[連絡先]に移動して、 [連絡先] をクリックします。
- 2 連絡先のダイヤル情報を入力し、[保存] をクリックします。


連絡先のインポートおよびエクスポート

ディレクトリのインポート / エクスポート機能を使用すると、RealPresence Debut システムから、コンピュータやタブレットなどのローカルデバイスに連絡先を CSV ファイルのフォーマットでダウンロードすることができます。また、デバイスから RealPresence Debut システムに連絡先をアップロードすることもできます。

これらのタスクを実行する場合は、以下の点にご注意ください。

- アップロードする CSV ファイルのサイズは、100 KB を超えることはできません。ファイルの連絡先数は 1000 件未満である必要があります。
- エントリは、RealPresence Debut システムが通話状態でないときにのみインポートできます。
- アップロードされた CSV ファイルに RealPresence Debut システムに既に存在するエントリが含まれていた場合、重複するファイルは削除されます。

ディレクトリの連絡先をエクスポートするには、以下の手順を実行します。

- 1 Web インターフェイスで、[連絡先]に移動して、 [連絡先をエクスポート] をクリックします。
- 2 ダウンロードした *directory.csv* ファイルをローカルデバイスに保存します。

エントリは、RealPresence Debut システムが通話状態でないときにのみエクスポートできます。

ディレクトリの連絡先をインポートするには、以下の手順を実行します。

- 1 Web インターフェイスで、[連絡先]に移動して、 [連絡先をインポート] をクリックします。
- 2 ダイアログボックスで、インポートする *directory.csv* ファイルを選択し、[開く] をクリックします。
- 3 [インポート] を選択して、*directory.csv* ファイルを RealPresence Debut システムにアップロードします。

Microsoft Exchange サーバのカレンダーリングサービスへの接続

RealPresence Debut システムは、Microsoft Exchange Server 2013 に接続して、特定の Microsoft Outlook システムアカウントのカレンダー情報を取得できます。RealPresence Debut システムは、Microsoft Exchange サーバに接続するのに、ユーザが指定した資格情報を使用します。

カレンダーリングサービスに接続すると、システムで以下のことができるようになります。

- その日に予定されている会議とその詳細を表示する
- 予定されている会議の前に、リマインダ音とともに会議のリマインダを表示する
- [カレンダー] 画面から会議に参加する。



Microsoft との統合には Professional Services が必要

Polycom Conferencing for Microsoft Outlook と Microsoft Office Communications Server の統合には、Professional Services for Microsoft Integration が必要不可欠です。追加情報および詳細については、Polycom の下記サイトをご参照いただくか、ローカルの Polycom Representative にご相談ください。
http://www.polycom.com/services/professional_services/index.html

カレンダーリングサービスを構成するには：

- 1 Web インターフェイスで、[サーバ設定]>[カレンダー]の順に選択します。
- 2 必要に応じて以下の設定を構成します。

設定	説明
カレンダーが有効	Microsoft Exchange Server 2013 に接続して、カレンダー情報を取得できるようにします。
Microsoft Exchange サーバ	Microsoft Exchange Client Access Server の FQDN (Fully Qualified Domain Name) ネットワーク ロード バランサに複数のクライアント アクセス サーバがつながっている場合、これはサーバの仮想 IP アドレスの FQDN になります。必要に応じて FQDN の代わりに IP アドレスを使用することができますが、Outlook クライアント用と同じ FQDN を使用することを推奨します。 Microsoft Exchange Server への接続情報を手動で入力する場合は、このフィールドにのみ値を入力します。
ドメイン	Microsoft Exchange Server 2013 への登録用ドメインを、NETBIOS 表記か DNS 表記で、たとえば company.local または COMPANY のように指定します。
ユーザ名	Microsoft Exchange Server 2013 への登録用ユーザ名を指定します。ドメイン情報は不要です。これはシステム名、個人名のいずれかです。
パスワード	Microsoft Exchange Server 2013 での登録に使用するシステムパスワードを指定します。これは、システムパスワード、個人のパスワードのいずれかです。



RealPresence Resource Manager でのカレンダーの使用

RealPresence Debut が RealPresence Resource Manager によって自動的にプロビジョニングされる場合、カレンダーリングサービスを有効にするために、プロビジョニング資格情報を手動で入力する必要があります。プロビジョニングの詳細については、「[プロビジョニングサービスの使い方](#)」をご参照ください。RealPresence Resource Manager の詳細については、『Polycom RealPresence Resource Manager System Operations Guide』をご参照ください。

スケジュール済みミーティングの閲覧

カレンダーでミーティングに関する詳細を閲覧するには、そのミーティングを選択します。システムの構成によっては、プライベートなミーティングの詳細は表示されないことがあります。

スケジュールされたミーティングを閲覧するには：

- » リモコンで、ホーム画面の [カレンダー] アイコンを選択します。


通日のスケジュール済みミーティングがリストされます。

スケジュール済みミーティングへの参加

RealPresence Debut システムでは、ミーティング接続情報を取得して、以下の方法でスケジュール済みミーティングに参加できます。

- Polycom Conferencing for Microsoft Outlook アドインが自分のサイトにインストールされている場合。
- 参加するミーティングの場所またはメッセージで、< *ビデオ番号* > に続いて Virtual Meeting Room (VMR) 番号がリストされている場合。

スケジュール済みの会議に参加するには：

- 1 リモコンで、ホーム画面の [**カレンダー**] アイコンを選択します。
- 2 参加するミーティングまでカレンダーリストをスクロールダウンします。
- 3 リモコンの  [**決定**] ボタンを押して、ミーティングに参加します。

通話の発信

[**通話の発信**] 領域では、連絡先を検索するか、手動で通話を発信することができます。

ディレクトリリストの連絡先に通話するには、以下の手順を実行します。

- 1 [**連絡先**] セクションで、入力フィールドに名前を入力します。
- 2 連絡先名を選択して、[**通話**] をクリックします。

ディレクトリの連絡先の編集方法については、「[ディレクトリの連絡先の管理](#)」をご参照ください。

通話を手動で発信するには：

- » 番号を入力して、[**通話**] をクリックします。

検索

ローカルインターフェイスの [**通話の発信**] 画面のテキストボックスで、[**連絡先**] または [**最近の通話**] リストの項目をフィルタリングするための検索用語を入力できます。通話を発信する項目を選択します。

最近の通話

[**最近の通話**] リストは、RealPresence Debut システムのローカルインターフェイスのホーム画面に表示されます。リストには、以下の情報が含まれます。

- サイト名または番号
- 発信した通話または受信した通話
- 日時

通話中のビデオの停止と開始

ローカルインターフェイスを使用すると、通話中にこちら側のビデオを停止させることができます。ビデオ表示は、いつでも再開させることができます。

ビデオ表示を停止させると、会議に接続された状態のまま、こちら側のカメラでエンコードされたビデオの送信を停止させることができます。ローカルビデオの表示を停止させると、相手側サイトには、こちら側からのビデオ送信が表示されません。代わりに、ビデオ一時停止画像が相手側サイトに送信されます。ビデオ表示を停止させても、コンテンツの送受信への影響はありません。

通話中のビデオを停止および開始するには、以下の手順を実行します。

- » ツールバーから  [ビデオ] を選択します。

リモートでのシステムの構成

Polycom RealPresence Resource Manager から RealPresence Debut システムを構成、管理、および監視できます。RealPresence Resource Manager を使用するには、ご使用のネットワーク上に管理アプリケーションがインストールされている必要があります。サービスプロバイダでも、RealPresence Cloud モードで RealPresence Debut を構成、管理、および監視できます。

プロビジョニングサービスの使い方

RealPresence Resource Manager システムまたは BroadSoft BroadWorks® Device Management System (DMS) を使用している場合は、Polycom RealPresence Debut システムをダイナミック管理モードで管理することができます。ダイナミック管理モードでは、以下のことが該当する場合があります。

- [サーバアドレス]、[ドメイン]、[ユーザ名]、および[パスワード]の各フィールドは、[プロビジョニングサービス]画面に値が書き込まれます。
- プロビジョニングされる設定、またはプロビジョニングされる値に依存する設定は、RealPresence Debut システム上では非表示になります。
- Polycom RealPresence Debut システムは、再起動するたび、およびサービスによって設定された間隔で、プロビジョニングサービスから新しいソフトウェアが公開されているかどうかをチェックします。サーバから公開されたソフトウェアアップデートがあれば、自動的にアクセスして実行します。
- プロビジョニングサービスのシステム管理者は、設定済みの RealPresence Debut システムからプロビジョニングされたバンドルをアップロードすることができます。RealPresence Debut システムがプロビジョニングを要求すると、プロビジョニングされたバンドルと自動設定がダウンロードされます。管理者権限を持つ RealPresence Debut システムのユーザは、プロビジョニングされたバンドルの適用後、RealPresence Debut システムで設定を変更することができます。プロビジョニングサービスからプロビジョニングされたバンドルを新しくダウンロードする場合、新しいバンドルは手動設定を上書きします。
- システムが、以前は正常にプロビジョニングサービスに登録されていたのに、再起動時またはアップデートのチェック時にサービスを検出できない場合、[システム状況]画面に警告が表示されます。システムがプロビジョニングサービスへの登録が外れた場合でも、プロビジョニングサービスから受信した前回の設定を使用して引き続き動作します。

BroadSoft DMS プロビジョニングを使用する場合は、以下の点にご注意ください。

- バンドルされたプロビジョニングはサポートされていません。
- プロビジョニングはダイナミックプロビジョニングに使用されるのと同じ XML ベースのプロファイルを使用します。
- プロビジョニングされたフィールドは読み取り専用です。

RealPresence Debut のプロビジョニング

RealPresence Debut と連動するようにプロビジョニングサービスを自動または手動で構成できます。サービスのセットアップ後に、プロビジョニングサービスを無効にすることもできます。自動または手動で RealPresence Debut をプロビジョニングするには、以下の 2 つの構成手順を完了する必要があります。

- プロビジョニングサーバ上に RealPresence Debut のプロビジョニングプロファイルを作成します。
- RealPresence Debut Web インターフェイスでプロビジョニング設定を構成します。

プロビジョニングの前提条件

プロビジョニングを開始する前に、プロビジョニングする RealPresence Debut システムの MAC アドレスを調べる必要があります。

RealPresence Debut システムの MAC アドレスを検索するには、以下の手順を実行します。

- 1 Web インターフェイスで、[デバイスステータス] に移動します。
- 2 コロンを省略して、MAC アドレスをメモするか、保存します。たとえば、MAC アドレスが 00:e0:db:30:e7 の場合、00e0db30e7 を使用して RealPresence Debut をプロビジョニングします。

プロビジョニングプロファイルの作成

RealPresence Debut をプロビジョニングするには、プロビジョニングサーバ上に RealPresence Debut プロビジョニングプロファイルを作成する必要があります。

プロビジョニングプロファイルを作成するには、次の操作を行います。

- 1 パーソナルコンピューティング デバイスで、[Polycom サポート](#) に移動し、プロビジョニング テンプレート ファイル「**RealPresence_Debut_Provisioning_Template.cfg**」をダウンロードします。
- 2 Polycom RealPresence Debut システムの MAC アドレスを使用して、**<macaddress>_profile.cfg** のようにプロビジョニング テンプレート ファイルの名前を変更します。
- 3 指定されたプロビジョニングサーバの場所に移動します。

プロビジョニング サーバ プロファイルの場所

プロビジョニングサーバ	位置
Polycom RealPresence Resource Manager	『Polycom RealPresence Resource Manager Operations Guide』をご参照ください。
Polycom Zero-Touch Provisioning	『Polycom Zero-Touch Provisioning User Guide』をご参照ください。
BroadSoft BroadWorks Device Management System (DMS)	<i>https://ipaddress/dms/RPDebut</i>
FTP/FTPS	<i>ftp/ftps://ipaddress/</i>
HTTP/HTTPS	<i>http/https://ipaddress/RPDebut</i>

- 4 Broadsoft DMS プロビジョニングサーバおよび HTTP/HTTPS プロビジョニングサーバについては、プロビジョニングサーバ上に「**RPDebut**」という名前の新しいフォルダを作成します。プロビジョニングサーバの場所が RPdebut フォルダを含むように変更されます。

- 5 <macaddress>_profile.cfg ファイルをプロビジョニングサーバにコピーします。

プロビジョニングサービスの自動構成

- 1 RealPresence Debut は、電源をオンにすると、DHCP によってプロビジョニングサーバのアドレスを読み取り、プロビジョニングサービスを自動的に検出します。RealPresence Debut を正常にプロビジョニングするには、以下の形式でプロビジョニングサーバのアドレスを返すように DHCP を構成する必要があります。

プロビジョニングサーバプロファイルの場所

プロビジョニングサーバ	アドレスの形式
Polycom RealPresence Resource Manager	https://<user>:<password>@ip_address または https://ip_address
BroadSoft BroadWorks Device Management System (DMS)	https://<user>:<password>@ip_address
FTP/FTPS	ftp://<user>:<password>@ip_address または ftps://<user>:<password>@ip_address

プロビジョニングサービスを自動で構成するには、以下の手順を実行します。

- 1 Web インターフェイスで、[サーバ設定]>[プロビジョニング]の順に選択します。
- 2 [自動]設定を選択します。
- 3 [DHCP サーバオプション]ドロップダウンメニューから、[デフォルト]または[カスタム]を選択します。デフォルト値は 66 です。[カスタム]を選択した場合は、カスタム DHCP 値を入力します。RealPresence Debut はこの値を使用して、DHCP からプロビジョニングサーバのアドレスを読み取ります。



RealPresence Resource Manager でのカレンダーの使用

RealPresence Debut が RealPresence Resource Manager によって自動的にプロビジョニングされる場合、カレンダーリングサービスを有効にするために、プロビジョニング資格情報を手動で入力する必要があります。手動によるプロビジョニングの詳細については、「[プロビジョニングサービスの手動構成](#)」をご参照ください。RealPresence Resource Manager の詳細については、『Polycom RealPresence Resource Manager System Operations Guide』をご参照ください。

Polycom Zero Touch Provisioning

RealPresence Debut が DHCP によってプロビジョニングサービスを検出できない場合、RealPresence Debut は自動的に Polycom Zero-Touch Provisioning サーバに接続して、システムをプロビジョニングします。Polycom Zero-Touch Provisioning (ZTP) の詳細については、『Polycom Zero-Touch Provisioning User Guide』をご参照ください。

プロビジョニングサービスの手動構成

Web インターフェイスで RealPresence Debut システムのプロビジョニング設定を構成できます。

プロビジョニングサービスを手動で構成するには、以下の手順を実行します。

- 1 Web インターフェイスで、[サーバ設定]>[プロビジョニング]の順に選択します。

- 2 **[手動]** 設定を選択します。
- 3 プロビジョニングに必要なこれらの設定を構成します。複数の Polycom RealPresence Debut システムをシングルユーザに登録することができます。

設定	説明
サーバタイプ	プロビジョニングサーバのタイプを指定します。[Polycom RPRM]、[Polycom ZTP]、[Broadsoft DMS]、または [その他] を選択します。
サーバアドレス	プロビジョニングサービスを実行するシステムのアドレスを指定します。
ドメイン名	プロビジョニングサービスに登録するためのドメイン名を指定します。
ユーザ名	プロビジョニングサービスに登録するためのエンドポイントのユーザ名を指定します。
パスワード	システムをプロビジョニングサービスに登録するためのパスワードを指定します。

- 4 **[送信]** をクリックします。システムは、プロビジョニングサービスによる登録を試行します。



プロビジョニングの登録のトラブルシューティング

自動プロビジョニングが有効でも、システムがプロビジョニングサービスに正常に登録されていない場合、登録に使用される [ドメイン]、[ユーザ名]、[パスワード]、または [サーバアドレス] の変更が必要となる場合があります。たとえば、ユーザはコンピュータからネットワークへのログインに使用されるパスワードを定期的リセットするよう要求されることがあります。そのようなネットワークパスワードが、プロビジョニングサービス用パスワードとしても使用されている場合、Polycom RealPresence Debut システム上でもパスワードを更新する必要があります。この場合、ユーザのネットワークアクセスが予期せずロックアウトされるのを防止するため、Polycom RealPresence Debut システムは自動的な登録の再試行を行いません。再試行するのは、管理者が [プロビジョニングサービス] ページで設定を更新し、手動で登録した後です。

プロビジョニングサービスを無効にする

Web インターフェイスでプロビジョニングサービスを無効に設定することができます。

プロビジョニングサービスを無効にするには、次の操作を行います。

- 1 Web インターフェイスで、[サーバ設定] > [プロビジョニング] の順に選択します。
- 2 **[無効]** 設定を選択します。

RealPresence Cloud モードを有効にする

RealPresence Cloud サービスを使用すると、サービスプロバイダはプロビジョニングサービスを使用して RealPresence Debut を構成できます。サービスプロバイダが RealPresence Cloud サービスを使用して RealPresence Debut を構成すると、サービスプロバイダがシステムをプロビジョニングするように Web インターフェイスで RealPresence Cloud モードを有効にする必要があります。

RealPresence Cloud モードを有効にするには、以下の手順を実行します。

- 1 Web インターフェイスで、[管理者設定] > [モードの切替え] の順に選択します。
- 2 **[RealPresence Cloud]** ラジオボタンをオンにして、**[送信]** をクリックします。

- 3 RealPresence Debut でセットアップウィザードが開始され、最初の設定画面に移動します。セットアップウィザードの詳細については、「[セットアップウィザード](#)」をご参照ください。

RealPresence Cloud サービスの更新

サービスプロバイダが RealPresence Cloud サービスを使用して構成を変更したり、サービスプロバイダが RealPresence Debut システムをプロビジョニングするために使用されたアカウントのアカウント情報をアップデートした場合、RealPresence Debut システムで RealPresence Cloud サービスを更新する必要があります。RealPresence Cloud サービスを更新すると、システムは新しい構成とアップデートに正確に対応します。

RealPresence Cloud サービスを更新するには、以下の手順を実行します。

- 1 ローカルインターフェイスで、[設定]>[一般設定]の順に選択します。
- 2 リモコンで、[ログアウト]、[OK]、および[ログイン]を選択します。

ソフトウェアを最新状態に維持する

Polycom RealPresence Debut システムソフトウェアは、USB ストレージデバイス、Web インターフェイス、または RealPresence Resource Manager からアップデートできます。RealPresence Resource Manager を使用したソフトウェアのアップデート方法については、『Polycom RealPresence Resource Manager System Operations Guide』をご参照ください。バージョンの依存関係も含めて最新のソフトウェアバージョンに関しては、『*Polycom RealPresence Debut Release Notes*』をご参照ください。

USB ストレージデバイスからのソフトウェアのアップデート

USB ストレージデバイスからソフトウェアのアップデートを適用できます。



サポートされている USB ストレージデバイスの形式

Polycom では、FAT32 形式の USB ストレージデバイスをサポートしています。NTFS 形式の USB ストレージデバイスはサポートしていません。

USB ストレージデバイスからのソフトウェアをアップデートするには、以下の手順を実行します。

- 1 コンピュータでブラウザを開き、support.polycom.com に移動します。
- 2 [Documents and Downloads] の下の [Telepresence and Video] を選択します。
- 3 対象の RealPresence Debut システムのアップデートが置かれているページに移動します。
- 4 Polycom の Web サイトで取得した *polycom-debut-release-x.x.x-xxxx.tar.gz* 形式のソフトウェアパッケージを USB ストレージデバイスのルートディレクトリに保存します。
- 5 USB ストレージデバイスを、RealPresence Debut システムの背面にある USB ポートに差し込みます。システムによって USB ストレージデバイスが検出され、ソフトウェアをアップデートするかどうかを確認するメッセージが表示されます。
- 6 画面に表示されるセットアップウィザードの指示に従って、アップデートを完了します。セットアップウィザードを使用できるのは、初期設定時、システム設定を削除した状態でシステムをリセットした後、ファクトリ リストア ボタンを押した後、または RealPresence Cloud モードを有効にした後です。

Web インターフェイスからのソフトウェアのアップデート

Web インターフェイスからソフトウェアのアップデートを適用できます。

Web インターフェイスからソフトウェアのアップデートを適用するには、以下の手順を実行します。

- 1 Web インターフェイスで、[管理者設定]>[ソフトウェアのアップグレード]の順に選択します。
- 2 [ファイルの選択]をクリックし、アップグレードファイルを選択します。
- 3 [アップグレード]ボタンをクリックします。

Web インターフェイスの設定のエクスポートとインポート

コンピュータやタブレットなどのローカルデバイスに既存の RealPresence Debut の Web インターフェイスの設定を .txt 形式でエクスポートできます。また、Web インターフェイスの設定をデバイスから RealPresence Debut システムにインポートして、RealPresence Debut の手動によるクイック構成を有効にできます。

セキュリティ目的のために、パスワードを含むすべての設定は Polycom RealPresence Debut に対してエクスポートまたはインポートできません。この設定には、プロビジョニングサーバによって構成された設定、カレンダーサーバ情報、および SIP および H.323 サーバ情報が含まれます。

Web インターフェイスの設定のエクスポート

Web インターフェイスから RealPresence Debut Web インターフェイスの設定をエクスポートできます。

Web インターフェイスの設定をエクスポートするには、以下の手順を実行します。

- 1 Web インターフェイスで、[システム設定]>[構成のインポート/エクスポート]の順に選択します。
- 2 [エクスポート]をクリックして、ダウンロードした .txt ファイルをローカルデバイスに保存します。

Web インターフェイスの設定のインポート

Web インターフェイスから RealPresence Debut Web インターフェイスの設定をインポートできます。

Web インターフェイスの設定をインポートするには、以下の手順を実行します。

- 1 Web インターフェイスで、[システム設定]>[構成のインポート/エクスポート]の順に選択します。
 - 2 [ファイルの選択]をクリックし、インポートする .txt ファイルを選択します。
 - 3 [インポート]を選択して、.txt ファイルを RealPresence Debut システムにアップロードします。
- ファイルが正常にインポートされると、RealPresence Debut は再起動します。

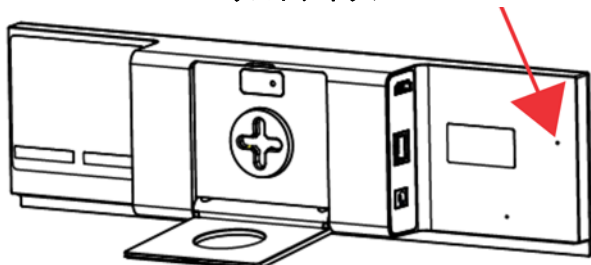
トラブルシューティング

トラブルシューティング情報の詳細については、[Polycom Support](#)にある Knowledge Base で検索します。

Polycom RealPresence Debut リストアボタン

Polycom RealPresence Debut リストアボタンのピンホールは、以下の図に示すように、RealPresence Debut の背部にあります。

RealPresence Debut リストアボタン



Polycom RealPresence Debut システムのリセット

RealPresence Debut システムが正常に機能しない、または管理者パスワードを忘れた場合は、システムをリセットします。この手順は効果的にシステムを更新し、現在のソフトウェアバージョンを除くすべての設定を削除します。

RealPresence Debut システムをリセットするには、以下のいずれかを実行します。

- RealPresence Debut システムの電源がオンの場合：
 - 1 紙クリップをまっすぐに伸ばして、ピンホールに挿入します。
 - 2 リストアボタンを押し続けます。
- Web インターフェイスで、**[管理者設定]**>**[ファクトリリセット]**の順に選択して、**[リセット]**をクリックします。

約 15 秒後、システムが再起動し、セットアップウィザードが表示されます。

Polycom RealPresence Debut システムのファクトリリストアの実行

ファクトリリストアは、システムの内容を完全に消去し、ファクトリパーティションに格納されたソフトウェアバージョンとデフォルト構成をリストアします。

このファクトリリストア操作により、システムのフラッシュメモリが完全に消去され、システムのファクトリパーティションに格納されたソフトウェアバージョンとデフォルト構成が再インストールされます。

次の項目は保存されません。

- ソフトウェアアップデート
- ディレクトリのエントリ
- ログ

復元ボタンを使用してシステムの出荷時のパーティションに格納されたソフトウェアをシステムに復元するには、次の操作を行います。

- 1 紙クリップをまっすぐに伸ばして、ピンホールに挿入します。
- 2 紙クリップを使用して、リストアボタンを押し続けます。
- 3 システムから電源コードを外します。
- 4 リストアボタンを押し続けながら、電源コードを RealPresence Debut に接続します。
- 5 リストアボタンをさらに 15 秒間押し続けてから放します。

ファクトリリストアの手順を実行中、HDMI モニタには Polycom の起動画面と通常のソフトウェアアップデート画面が表示されます。その他の種類のモニタには何も表示されません。ファクトリリストアの手順を実行中は、システムの電源をオフにしないようにします。ファクトリリストアの手順が完了すると、システムは自動的に再起動します。

システムの IP アドレスの確認

RealPresence Debut システムの IP アドレスは、以下の手順を実行して、ローカルインターフェイスまたは Web インターフェイスで確認することができます。

- ローカルインターフェイスで、[ホーム] ページに移動します。画面の左下隅に IP アドレスが表示されます。
- Web インターフェイスで、[デバイスステータス] に移動します。IP アドレスはステータスリストに表示されます。

テクニカルサポートへの連絡方法

システムの設置や設定が正しいにもかかわらず、テスト通話を正常に実行することができない場合は、Polycom の販売代理店または Polycom のテクニカルサポートにお問い合わせください。

Polycom テクニカルサポートに連絡するには、[Polycom Support](#) にアクセスしてください。

以下の情報を入力してから、質問または問題についての説明を記載します。これらの情報があれば、お客様の問題に、より早く対応することができます。

- [システムデバイス] 画面またはシステムの底面に表示された 14 桁のシリアル番号
- [システムデバイス] 画面に表示されたソフトウェアバージョン
- システムが生成したアクティブな警告
- ネットワークに関する情報
- すでに実行したトラブルシューティング手順

システム詳細情報を確認するには、Web インターフェイスで [デバイスステータス] に移動します。

Polycom ソリューションサポート

Polycom インプリメンテーションサービスおよび Polycom サポートサービスは、Polycom ソリューションを構成する Polycom 製品にのみ対応しています。Polycom がサポートし、Polycom ソリューションとのインテグレーションの対象となっているサードパーティの Unified Communications (UC) システムに対しては、Polycom Global Services および Polycom 認定パートナーから別途に提供される付加サービスがあります。この付加サービスは、カスタマーが UC システムの環境における Polycom ビジュアルコミュニケーションの設計、導入、最適化、管理などを成功裏に実現するために有益なサービスです。Polycom Conferencing for Microsoft Outlook と Microsoft Lync Server の統合には、UC Professional Services for Microsoft Integration が必要不可欠です。追加情報および詳細については、Polycom の下記サイトをご参照いただくか、ローカルの Polycom Representative にご相談ください。

http://www.polycom.com/services/professional_services/index.html